

そう列車がやってきた

ぞうの命を守った人々の あたたかい心が伝わる感動の実話物語。

8 0 M B O

ポッポちゃん(5才)のお父さんは、名古屋の東山動物園の園長さんです。ポッポ ちゃんは、毎日サブちゃん(5年生)といっしょに動物園の中をぐるっと回ります。 動物園の動物は、みんなポッポちゃんとサブちゃんの友だちです。

その頃、日本は、アメリカ・イギリスなど世界中の国を相手に戦争をしていました。 でも、動物園にはまだたくさんの動物がいました。その中でも一番の人気者は 象です。象の柵のまわりはいつも人でいっぱいです。

東山動物園にも4頭の象がいました。戦争が始まって運ぶことが出来なくなっ たので、木下サーカスから譲り受けたのです。マカニー、エルド、キーコ、アドン。 4頭は曲芸をしていました。

戦争はだんだんと激しくなり、動物園でもエサ不足が深刻になりました。象が 毎日食べるワラも、燃料になってしまい集めるのが一苦労です。

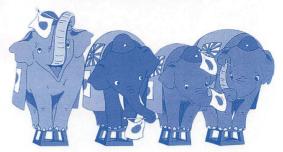
でも、それ以上の難問が動物園ではおきていました。全国の動物園に、猛獣を 処分せよという命令が出されていたのです。そして、処分する猛獣の中には、象 も含まれていました。上野動物園では、花子、ジョンが殺されました。

猛獣を処分せよという再三の命令を断わり続けてきた東山動物園でも、つい 12...



監督・脚本 加藤 盟 / 原作 小出隆司(岩崎書店刊)/キャラクターデザイン・作画監督 北崎正浩 美術監督 小林七郎 / 撮影監督 藤田正明 / 音響監督 明田川進 / 音楽 小六禮次郎 アニメーション監督 吉田健次郎 / 製作協力 T&Kテレフィルム / アニメーション製作 虫プロダクション 製作 映画「ぞう列車がやってきた」製作委員会

バリアフリー対応作品



M B B D

◆戦争中、たくさんの動物が殺されました。20頭い た象も殺され、残ったのは名古屋の東山動物園にい る2頭だけでした。戦後、2頭の象マカニーとエルド に会いたいという子どもたちの熱い願いが大人た ちを動かし、東京をはじめ全国から「ぞう列車」に乗っ て子どもたちが東山動物園にやって来ました。この 映画は実話にもとづいて製作されました。

- ◆動物園には、たくさんの動物がいます。あたりま えのようですが、そうでない時代がありました。あの 太平洋戦争の時代です。人間の勝手な都合で、多く の動物が殺されました。動物園にたくさんの動物が いることは、平和である証です。動物園のシンボルは 今もむかしも象です。
- ◆長編アニメーション「ぞう列車がやってきた」は、 戦争から象を守りぬいた人々の優しさと勇気を子ど もたちの視点から描くとともに、夢も希望もなくした 戦後、「象を観たい」「象に会いたい」という東京の子 どもたちが、「平和」の象徴として「ぞう列車」を走ら せるまでを描きます。
- ◆原作「ぞうれっしゃがやってきた」は、小学校教師 の小出隆司氏が1976年に自費出版。生きていた象 の話は、子どもたちに大きな感動を呼び、1983年 岩崎書店より刊行されました。
- ◆監督、脚本は「わんぱくパック」(1976年)、「東京 からきた女の子」(1978年)、「オバケちゃん」(1987 年)などで、軽快なタッチの中に子どもたちの暖か い心を描いてみせた加藤盟。また、音楽は1990年 日本アカデミー賞優秀音楽賞に輝いた小六禮次郎 が担当します。

▶時 間:80分 ●図書館およびライブラリー、公共・館外利用できます

●価 格:DVD2本組 80,000円(税別)[副音声・字幕スーパー入りDVDとのセット価格です]



●お申し込み・お問い合せは

TEL 092-741-0306 FAX 092-741-6628

